

Title	行為のモデル再構築へ向けての基礎研究
Sub Title	A basic research toward the reconstruction of activity model
Author	篠原, 俊吾(Shinohara, Shungo)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>2020年度、単年で申請した個人研究助成の研究内容の一部を継続し、行為のモデルとなる「行為、行為者、対象」を含む因果関係の図式の再構築に向けて基礎研究を行うことを目的とした。従来の三者はあらかじめ分割されたアприオリな存在として議論されてきたが、実際の言語データと照合すると、整合性のない点が見られるため、本年は、データを精査し、哲学的な思索を交え、代案として、全く異なる角度からこれら既存の枠組みを捉え直すことを試みた。</p> <p>上記のプロジェクトに関して、以下、2本の論文としてその研究成果を発表した。</p> <p>(1)「フレームと言語獲得 機能主義的言語獲得論再考」『認知言語学の未来に向けて - 辻幸夫教授退職記念論文集 -』(開拓社)(2022年3月刊行)</p> <p>(2)「排他的誤謬を考える」『教養論叢』143号(慶應義塾大学法学会)(2022年3月刊行)</p> <p>In this project I have attempted to (1) collect data in order to make a basic research toward the reconstruction of activity model. I have produced some positive results and the achievement was presented in the papers "Frame and Acquisition of Language" in Toward the Future of Cognitive Linguistics and "On Exclusionary Fallacy," in Kyoyo-Ronsho Vol.14</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210031">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210031</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	100 (C) 千円
	氏名	篠原 俊吾	氏名 (英語)	SHUNGO SHINOHARA		
研究課題 (日本語)						
行為のモデル再構築へ向けての基礎研究						
研究課題 (英訳)						
a basic research toward the reconstruction of activity model						
1. 研究成果実績の概要						
<p>2020年度、単年で申請した個人研究助成の研究内容の一部を継続し、行為のモデルとなる「行為、行為者、対象」を含む因果関係の図式の再構築に向けて基礎研究を行うことを目的とした。従来の三者はあらかじめ分割されたアприオリな存在として議論されてきたが、実際の言語データと照合すると、整合性のない点がみられるため、本年は、データを精査し、哲学的な思索を交え、代案として、全く異なる角度からこれら既存の枠組みを捉え直すことを試みた。</p> <p>上記のプロジェクトに関して、以下、2本の論文としてその研究成果を発表した。</p> <p>(1)「フレームと言語獲得 機能主義的言語獲得論再考」『認知言語学の未来に向けて - 辻幸夫教授退職記念論文集 -』(開拓社) (2022年3月刊行)</p> <p>(2)「排他的誤謬を考える」『教養論叢』143号(應義塾大学法学研究会) (2022年3月刊行)</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
In this project I have attempted to (1) collect data in order to make a basic research toward the reconstruction of activity model. I have produced some positive results and the achievement was presented in the papers "Frame and Acquisition of Language" in Toward the Future of Cognitive Linguistics and "On Exclusionary Fallacy," in Kyoyo-Ronsho Vol.14						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
篠原 俊吾	フレームと言語獲得 機能主義的言語獲得論再考(認知言語学の未来に向けて - 辻幸夫教授退職記念論文集 -)	開拓社	2022年3月			
篠原 俊吾	排他的誤謬を考える(教養論叢) 143号)	應義塾大学法学研究会	2022年3月			